

生まれ変わった水と共に

洗足学園中学校

一年 山下 莉采

私の住んでいる地域には「江川せせらぎ遊歩道」があります。この遊歩道には季節ごとに色とりどりの花が咲き、川にはコイやメダカがいたり、鴨の親子が仲良く泳いでいるのを見ることができません。秋には毎年「森とせせらぎ祭り」が開催され、幼稚園から小学生の頃はスタンプラリーや絵てがみ展に参加しました。キラキラ光る水面に葉のボードを浮かべて競争したり、ザリガニを探したりと小さな頃から身近に触れ合っていた水辺を私はつつきり自然のものだと思っていました。実は雨水貯留管を利用した再生水だと知ったのはずいぶん経ってからのことです。

ある日、せせらぎ遊歩道を通ったら水が全くなくなっていました。魚もいなくなっていて心底驚きました。

後になってから、生き物は上流に移して水路の藻を干す清掃を定期的に行っていることが分かりました。その時にこの小川は人工的に作られたことを初めて知りました。せせらぎを流れている再生水は、雑用水ともいい、飲み水以外に利用する水のことです。以前江川は生活用水として利用されていましたが、急激な都市化により水質が悪化し、悪臭を放つドブ川になっていました。その後、役目を終えて廃川となった跡地に、雨を一度貯めて等々力水処理センターできれいな水にして流す貯留施設が作られ、平成十五年、現在の姿になりました。この水路を流れる水は、高度に処理されているため、不純物が交じらず微生物などのエサや隠れる場所がないため生き物は生息せず、他の場所から放流することで自然の水質に近づけています。

今では、市民の憩いの場として親しみをもつ生活空間を形成しているほか、雑用水を利用することは節水にもつながり、渇水時にも役立ちます。都市部では雨水を浸透させることができる森林等が減少しており、大雨が降った時の氾濫や浸水被害をこの水路によって防ぐことができます。

せせらぎの水について調べたことで、水には水道水など飲用に適した「上水」、生活排水や産業排水、雨水などの汚水を集約して処理する「下水」の他、飲用には適さないけれど、雑用、工業用などに使用される「中水」と呼ばれる水道があることを知りました。中水は水を再利用しているため、環境にやさしく水道料金のコスト削減にもなります。消火、水洗トイレ用水、冷却、冷房用水、植物の散水などは上水を使用するのはもったいなく、中水をもっと活用していくことで、限りある水資源を有効に使えるようになります。しかし、中水の利用は、まだ上水道使用量の三パーセントほどしかないそうです。せせらぎ遊歩道のような環境に配慮した技術が今後増えていってほしいと願うとともに、家庭でもできる中水利用—お風呂の残り湯を洗濯に使ったり、雨水をためて植木の水やりをするなど積極的に取り組んでいきたいと思っています。

久しぶりに江川せせらぎ遊歩道に散歩に行ったら、草花が生き生きと咲き、蝶が舞い、小魚の群れが元気に泳いでいました。この景観は決して自然に出来上がったものではありません。自治体と、地域の方が協力して維持、

管理しているからこそ保っているのだと実感しました。次の清掃作業の時には私もボランティアに参加して、せせらぎを守る一員になりたいです。